

Contents

\*\*\*\*\*

特集：靖国神社参拝を考える	1p
<今週の”The Economist”から>	
“Shrine wars” 「神社戦争」	12p
<From the Editor> 「とりあえずの私見」	13p

\*\*\*\*\*

**特集：靖国神社参拝を考える**

8月15日が近づいています。小泉首相の靖国神社参拝が政治上の焦点となり、構造改革の行方や対アジア外交にも大きな影響を与えそうな状況になっています。

以下は典型的な戦後生まれである筆者（1960年生まれ）が、まったく不案内なこの問題に取り組んだ思考の軌跡です。ホームページ上で毎日更新している「かんべえの不規則発言」のうち、8月に入ってからの靖国神社関連記事を編集しておりますが、適宜加筆修正している点を付記しておきます。

**<8月1日>（水）「靖国問題」**

今年も8月がやってきました。戦争に関する行事が多い季節ですが、今年はとくに靖国神社参拝問題をめぐり、ややこしい議論が繰り返されそうです。筆者自身、この問題に対する答えが出せないで苦しんでおりますが、以下はその思考経路をご披露する次第です。

世間一般でいわれている靖国神社参拝の問題点については、アサヒコムが上手に整理しています<sup>1</sup>。とくに年表は役立ちます。筆者の見るところ、主要な論点は2つに絞られます。

憲法20条の政教分離、89条の宗教団体への公金支出禁止  
A級戦犯の合祀

---

<sup>1</sup> <http://www.asahi.com/senkyo2001/sanin/topics/010721a.htm>

靖国神社は明治12年から海・陸軍の所管で、戦争に参加した軍人・軍属で要請があった場合に、天皇の裁定で祀られる建前でした。この辺の事情については、靖国神社のHPをご覧ください<sup>2</sup>。ちなみに、靖国神社には「戊辰の役における東北諸藩の賊軍」が祭られていない、という論点が発生しますが、ここでは取り上げません。

まず時系列の混乱があることをご了解ください。1946年、GHQは靖国神社に対して、

国家との関係を絶って宗教施設として存続する  
宗教色のない戦没者追悼の記念碑的施設にする

いずれかの選択を迫り、靖国神社は を選択しました。そして翌47年には日本国憲法が成立し、政教分離が確定しました。

つまり靖国神社は、現在は一宗教法人に過ぎないわけで、これがこの問題の核心になります。首相が公式行事として参拝し、神道の行事を執り行ったり、玉串料を国庫から支払うことは憲法違反の可能性が大です。たとえば97年4月には、愛媛県が護国神社に玉串料の名目で県費を出資したことが最高裁で違憲と判断されています(15裁判官中13裁判官による多数意見)。「でも首相が新年の伊勢神宮へ参拝するのは認められているじゃないか」という人もいますが、それはちょっと違うだろ、と思います。

国家と宗教の分離、というのは基本的な問題です。小林よしのり氏あたりは、「戦死者を弔うのに宗教がなくていいのか」と簡単に言いますが、その場合はどの宗教を選ぶか、祭られる側に選択肢がなければなりません。米国のアーリントン・セメタリーは「お国のために死んだ人々」を埋葬する場所ですが、特定の宗教法人とは関係ありません。それどころか、あらゆる宗教・宗派の人を受け入れられるように最善の努力を尽くしていると聞いています。(でないとすぐに訴訟を起こされて、連邦政府が敗訴するでしょう)

戦後の歴代の日本首相は、ごく普通に靖国神社に参拝していました。その辺の事実関係については、岡崎久彦氏が読売新聞紙上で詳しく解説されています<sup>3</sup>。この問題は教科書問題と同じように、人為的に作られたものである、という論旨です。これを読むと、「やっぱりそうだろうなあ」という感じですが、このロジックで海外を納得させるのは難しいような気がします。

---

<sup>2</sup> <http://www.yasukuni.or.jp/side/gaiyo.html>

<sup>3</sup> <http://www.glocomnet.or.jp/okazaki-inst/yasukuni01.html>

さて、1978年には靖国神社はA級戦犯を合祀します。これ以後の首相の参拝に対しては、中国、韓国から批判が出るようになります。この間の事情について、靖国神社はHP上で事情を説明しています<sup>4</sup>。要するに、「合祀は戦後の厚生行政の一環として粛々と行われてきたのに、政治家が今頃になって知らなかった振りをするのは誠に遺憾」ということです。広く知らしめる価値がある話だと思います。

さて、靖国神社参拝に抗議する中国の言い分はこうです。

「戦争で中国はヒドイ目に遭ったが、あれは日本人のすべてが悪いのではなく、一部の人が悪かっただけだと国民に言い聞かせている。そうでないと日中友好ができないからだ。その悪いA級戦犯に日本国首相が参拝するのは、今の日本人も悪い連中だと考えざるを得ない」

なにしろ中国共産党は抗日戦線から出発した人たちですので、これを放っておくことは彼らの存立を脅かします。先ごろ、中国外相が田中外相との会談後、記者団に向かって「やめなさい、と言明した」と厳しく日本側を咎めたのは、いわばみずからの保身の意味もあるのだと考えていいでしょう。実際、1985年に参拝した中曽根首相が翌年は参拝を断念したのは、「中国内の日本シンパが失脚する可能性があったから」です。これはそれなりに現実的な判断だと思います。

ここでA級戦犯を別にしろ、という意見が出てきます。でもこれはどう考えても変ですね。まず、政府が一宗教法人に対して、ああしろこうしろということ自体が筋違いです。加えて「A級戦犯を分祀したら、それで中国や韓国は納得するのか」という保証もありません。それ以前に、筆者も素朴な感情としてこの議論に違和感を感じています。極東裁判には変なところがたくさんあるし、東郷茂徳のような人間もA級にされています。「戦後55年もたっているのに」「神道では、人間は死ねば神様になるのに」という声もあるでしょう。

筆者の思考をまとめると、政教分離の観点から、首相の靖国神社参拝は望ましくない。

A級戦犯の分祀は論外なアイデア、ということになります。同世代人である長島昭久氏が、ご自分のHPで同様な論旨を展開しているのを見て、やっぱりなと感じました<sup>5</sup>。

これから先が矛盾なのですが、それでも小泉首相が8月15日に行く、というのであれば、筆者は「止めたくはない、行かせてあげたい」とも思うのです。この大事な時期に、小泉政

---

<sup>4</sup> <http://www.yasukuni.or.jp/new/ooharayasuo/oohara.htm>

<sup>5</sup> <http://www.nagashima21.net/> の7月30日分をご参照ください。

権がこの問題で貴重な政治的資源を浪費するのは明らかに得策ではありません。でも、下記のようにいわれれば、「そうだよなあ」と思ってしまう。まして中国に気兼ねしたり、田中外相に説得されて、意思を曲げちゃ嫌だと思うのである。

「小泉総理は終戦記念日に靖国参拝を行うと言っている。小泉氏の性格からいって、やると言えばやるのであろう。そしてその理由は単純明快に、戦没者に哀悼の意を表するという事である。結論から言えば私はそれで良いと思う。公式、非公式の問題などは論ずる必要もない」（岡崎久彦氏）。

政治ジャーナリストK氏によれば、この問題に関する世論調査では、昔から一貫して6~7割の意見が「行ってよし」なのだそうである。考えてみれば、「政教分離」も「A級戦犯」も、一般人にとってはたいした関心事ではない。幸か不幸か、日本人の多数派は宗教には寛容なのである。小泉さんのやることは見ていてハラハラするけど、「結果オーライ」になってくれればいいな、と心から思う。「聖域なき構造改革」についても同じことがいえるのだが。

と、気が重いテーマについて、心ならずも長文を書いてしまいました。上記はできる限り正確を期したつもりですが、誤りがあればご指摘ください。

#### <8月2日> (木) 「世論の動向」

昨日たくさん書いたので今日は控えめに。靖国神社の問題に関連して、さっそくこんなアンケートができました。<sup>6</sup>現在の途中経過は下記のとおり。

<集計結果> 小泉首相の靖国神社参拝についてどう思いますか。8月2日(17:51PM)

参拝すべきだ	20671 票	67 %
参拝すべきでない	8741 票	28 %
私的な参拝なら問題ない	1049 票	3 %
わからない	236 票	0 %

現在のところ、首相の参拝に賛成意見が多いようです。K氏が言っていたとおりですね。筆者の周囲では、A「小泉は最後まで引っ張って結局、参拝を断念し、遺族会に仕方ないと思わせながら、立派な決断と評価されることを計算しているのだと思う」という意見と、B

---

<sup>6</sup> <http://www.asahi.com/politics/vote1/yasukuni.html> その後、撤去された。

「小泉が参拝を強行、その際、かなりふみこんだ首相声明を出して、この問題にケリをつけるのは一つの選択肢だし、小泉らしい」という意見があって、どちらもありそうな気がしました。

筆者はあいかわらず、「理屈では反対、心情的には賛成」というどっちつかずなんですけど、まあ責任のない立場なので許してもらいましょう。それにしても靖国神社にせよ、千鳥が淵にせよ、一度も行かずにこういう議論をしている自分が情けなく思えてきたので、今年の夏にはぜひ行ってみようと思いました。

### <8月3日> (金) 「戦争の記憶」

第2次世界大戦はナチスとムッソリーニ。湾岸戦争はフセイン。ユーゴ紛争はミロシェビッチ。これらは誰が悪いかがはっきりしている場合。ベトナム戦争、朝鮮戦争などは、正直なところ誰が悪いのかよく分からない。それでも戦争が終わった後には、責任者を裁こうという話になるのは無理からぬところである。そうでないと犠牲者に対して申し訳ないからだ。

では太平洋戦争はどうか。東條は確かに悪い。近衛の無責任さも腹が立つ。松岡の勇み足も罪が重い。だが、彼らが本当に責任を感じていたかといえば、必ずしもそうではなさそうである。『重光、東郷とその時代』（岡崎久彦）を読みながらそう感じている。後の時代を生きるわれわれが、あんまり死者を鞭打とうとしなかったことは、本当にいいことだったのかどうか。

幸か不幸か、戦勝国が極東裁判というのをやってくれて、戦争犯罪人をA級、B級、C級と格付けまでして裁いてくれた。とりあえず太平洋戦争の悪人はA級戦犯ということになった。少なくとも外国人はそうだと思っている。ただし本当に彼らが悪かったのかというと、よく分からない。不良債権が発生したのは誰のせい、という議論に似ている。政策決定メカニズムが不可思議なことになっているこの国においては、こういう話はよくあることだからだ。

日本人は太平洋戦争に関するPublic Memoryを作ることを避けてきた。だから戦後世代のわれわれが聞かされてきたのはPrivate Memoryとしての戦争である。その中で、日本人はいつも被害者である。本当は加害者でもあったはずなのだが。父母の世代から空襲や疎開や窮乏生活といった戦争体験を聞かされるたびに、子供の頃から何か胡散臭いものを感じてきた。今年もまたそういう季節がやってくる。

### <8月8日> (水) 「靖国神社へ...」

この世に生を受けて40年と10ヶ月、生まれて初めて靖国神社というところへ行ってみました。8月1日のこのページでも長々と書きましたけど、行かずに話をしているのはさすがにマズイかと思ひまして。会社は午後から半休を取って、夏の思い出作りに出かけてまいりました。

たしかに行ってみて初めて気がついたことがあります。あまりに当たり前なことなので書いて気が引けるのですが、「地下鉄九段下で地上に出ると、目の前に靖国神社の大鳥居があって、向かって左手は北の丸公園であること」。つまり道路一本を隔てて、日本武道館がある。来週の水曜になると、ここで全国戦没者慰霊式が行われる。ここに参加した人は、ついでに靖国神社に立ち寄るのが自然な行動になりそうだ。だって目と鼻の先なんだもの。

1986年以後の歴代首相は、慰霊式に出席した後は靖国神社に寄らずにそのまま立ち去っていることになる。政教分離とか、A級戦犯とか、いろいろあるのだから仕方がないとはいえ、普通に参列した人から考えれば釈然としない思いが残るだろう。ま、これは中国や韓国で怒っている人たちに通じる理屈ではありませんが。

靖国神社に祭られているのは、太平洋戦争の戦死者だけではない。だからその意味では、8月15日の参拝にこだわる必然性はないのです。以下の数字は靖国神社のホームページから。

#### 靖国神社御祭神戦役・事変別柱数 (平成12年10月17日現在)

明治維新 7,751	西南戦争 6,971
日清戦争 13,619	台湾征討 1,130
北清事変 1,256	日露戦争 88,429
第一次世界大戦 4,850	済南事変 185
満洲事変 17,175	支那事変 191,218
大東亜戦争 2,133,760	
-----	
合計 2,466,344	

安政の大獄以後に倒れた幕末の志士たち、たとえば吉田松陰、坂本竜馬あたりから、要するに「お国のために死んだ」約250万人がこの神社には祭られている。戦死軍人だけでなく、5万7000柱の女性（従軍看護婦やひめゆり部隊など）も合祀されている。要するに軍人だけを祭った神社ではないのである。これを国の事業ではなく、一宗教法人の事業として、民間の浄財を集めてやっているというところに、この問題の本質があるらしい。

いずれにせよ、都心にあって大切にしたい空間であることは間違いありません。この問題に対する筆者の意見は、依然として「小泉首相は行くべきではないけども、行かせてあげたい」と倒錯しております。ご本人としてはかなりの苦衷を味わっておられるでしょう。しかし8月15日まではあと1週間を切りました。

靖国神社自体は、普通の神社とそんなに大きな違いはありません。ちゃんと鳥居があって、拝殿があって、本殿があります。ご門に菊の紋章があることとか、大村益次郎の銅像があることとか、相撲場があることなどはユニークですが。ちゃんと賽銭も投げたし、おみくじも引きました。それから「遊就館」という博物館があって、現在は改築中なのだけど、「かく戦えり。近代日本」という特別展をやっていました。入場料一般300円は安い。これはお勧めです。

そうそう、靖国神社で引いたおみくじは「吉」でした。名前についているだけあって、私は昔からおみくじの「引き」は強いのである。

#### <8月9日> (木) 「行くや、行かざるや」

旧知のSさんからのご質問。

結果として小泉首相は8月15日に（あるいは別の日に）靖国神社に行くのだろうか？

それぞれのオプションを取った場合、その後小泉氏首相は、それぞれの場合（8月15日に参拝した場合、参拝しなかった場合）、本件がもたらす国内外の影響に対し、どう対処すべきなのか？

そろそろ靖国神社の「べき論」は切り上げて、現実の政治の問題として考えてはどうか、というご趣旨。同感ですね。言いかえれば、小泉純一郎首相がどういう行動を示すかを予想してみましょう。

小泉首相が「8月15日に靖国神社に参拝する」と言い出したのは、自民党総裁選の公開討論会の席上、記者の質問に答えてのことだった。総裁選の公約にはこのことは書かれていない。だが、その後何度も繰り返しているの、ほとんど公約に近いものになっている。では、なぜそんなことを言ったかという、3通りの説がある。

長年の信念だった。

厚生行政に携わる機会が多かったので、戦時処理の問題に関心が深い。

総裁選で日本遺族会、軍恩連盟の票が目当てだった。

どれも少しずつ当たっているのだろう。さる永田町関係者いわく。「首相は熟慮している、というが、あれは本当に決めていない。中曽根首相は戦後政治の総決算、というグランドデザインに沿って、計算ずくで参拝した。小泉さんにそういう計算はない。ぎりぎりまで待つ、タイミングを見て決断する」。考えてみれば、「聖域なき構造改革」にしても、当初は言葉だけがあって、中身はあとから作っている。われらが総理の発想法はそういうことになっているらしい。

筆者は、小泉さんはやはり8月15日に参拝すると思う。「日にちをずらす」という説も盛んに流れており、これはプロ筋に多い。「まともに正面突破するようなヤツは政治家じゃない」というのである。だが、小泉首相を動かすのは普通の損得計算ではないような気がする。「XXさんがこう言っているから」みたいなことで判断を曲げるのは、われら凡人が得意とするところ。彼の判断基準はおそらく違うところにある。さらにいえば、彼は失敗や摩擦を恐れない。

それ以上に、参拝を取りやめたり日にちをずらしたりすると、中国に間違ったメッセージを送る恐れがある。しかも同じ問題が来年以降も繰り返されることになる。それだったら、正面突破して結果に聞いて見た方がまだしもスッキリするのではないか。中国政府が激怒して日本企業イジメに走ることを懸念する向きもあるが、WTOに加盟してオリンピックも開催しようという国が、そこまでリスクを冒せるかという問題もある。クリント・イーストウッドじゃないが、"Go ahead, Make my day."とすごんでみてはどうか。中国はきっと困ると思う。

以上、「べき論」とは無縁で無責任な観測です。

#### <8月10日> (金) 「さまざまなお意見」

ものすごい数のご意見メールを頂戴しています。靖国問題の反響は非常に大きい。そのすべてを紹介することはできませんが、それぞれのさわりの部分だけを、以下の通り引用してみます。

問題は、憲法や周辺諸国の反応というよりも、首相が靖国参拝にどのような政治的意義を見出しているのかということです。戦没者の慰霊と平和への祈念という当初の目的どおり参拝が実行されるなら、それほど大きな政治的イシューにはならないのではないかと思います。(山根)

そこをどう説明するか。小泉さんらしい短くて分かりやすい言葉でお願いしたいですね。



たぶん国民の多くが思っているのは、「靖国神社は、第二次世界大戦の戦没者を合祀しているところ、だから8月15日に、小泉首相が、平和の祈りを込めていくことの、どこがおかしいのか」というところだと思います。でも私の回りで、靖国問題をきちんと認識している人は皆無に近いです。(U)

なんの、私も今回調べたお陰で初めて知りました。いいきっかけでした。

自分ならどうするか？中曽根首相が行った時よりも世論の関心を引けた。これで十分、目的が達した。声明を出し、参拝をやめる。声明の要点は、「アジア関係各国との外交の重要性」「世論を喚起出来、当初の目的は達した。今後もこの問題に関心を持ってもらいたい」。行くにしても行かないにしても、声明文は注目を集めており、自分を含めて、国民は戦争について勉強できると思います。(Y)

シンガポールからいただいたご意見。Yさん、元気でやっていますか。

靖国問題について、昨日中国(大陸出身)の人と話す機会がありましたので……。

1. 彼は小学生入学から高校卒行まで、毎年8月15日に中国人戦死者が祭られている墓地にお参りさせられていた。(当局より)
2. これは、彼に限ったことではなく、全員に強制されていること。(らしい)
3. 中国人が国のための戦死者にお参りする際には、平和を願うという気持ちは殆どなく、先人の意志を受け継ぎやり抜くことを誓うという意味となる。

要するに文化、風習の違いのような気がしました。(T)

死ぬと神仏になる国と、死者を裁いて厳正に記録にとどめる国の違いということですね。日本は戦争責任をなあなあで済ませましたが、中国はすでに毛沢東を批判し始めています。かの国の歴史へのこだわりは重いです。

西郷さんを祭ってないのは知らなかった！と言うよりも、そんな昔の人を祭ってあるの知らなかった。(S)

普通は知りませんよね。私もビックリしました。靖国神社は、戊辰の役で亡くなった官軍兵士のために発足したので、逆賊である会津藩士や彰義隊や新選組などの死者は祭っていません。ゆえに靖国神社に代表される国家神道は、日本古来の神道そもそもの精神に反する

と、梅原猛が言っていました。

私自身は国立墓地を作って無宗教で祀るべきだと思っています。そして、その墓地には旧植民地から参戦させられた方たちも祀ってほしいですね。この問題で毎年時間を使うのは無駄だと思っています。……反面、ここまできたら小泉さんは15日に行かなければならない気がします。私は、子供がたやすく人を殺すような日本の社会の乱れは、「言葉」というものを粗末にしすぎて来たことが一端にあると考えています。公約で言ったことは絶対に行う。政治家は言葉を大切にし、違えるかもしれないことは言うてはいけないのです。(N)

Nさん、お久しぶりです。靖国神社の日本庭園にはちゃんと行きましたよ。私はこのご意見を読んで、「援助交際は村山政権誕生のせいだ」(テリー伊藤)という名言を思い出しました。

唐外相は、「ヤメナサイトゲンメイシタ」と言っていました。「ヤメナサイ」は、「靖国神社に参拝するのを止めなさい」、「ゲンメイシタ」は「言明した」と理解されているようです。しかしどうなのでしょう。これを聞いて激怒で頭に血が上った人は、「ヤメナサイ」を「小泉は首相を辞めなさい」と、「ゲンメイシタ」を「厳命した」と受け止めてしまうかもしれません。恐ろしいことです。日本政府は唐外相に真意を質すべきではないでしょうか？日本は外交でチャンス逃していることがあまりにも多いと思います。(O1)

あの一言でカチンと来た人は少なくなかったと思います。田中外相やマスコミには、その場で反論してほしかった。でも、言われっぱなしで帰ってくるからなあ。ところでOさんからは、各方面の識者のご意見を多数ご紹介いただいています。

「親日派」がいるから、それに対抗する反日運動が起こるとい中国政治独特の動きを理解する必要があります。日本の器量を考えれば、下手に「親日派」を作らない事が、むしろ日中関係にとって得策なのかもしれません。……さいわいなことに、今の中国には大「親日派」が居ないので、靖国はさしたる結果にはならず、外交部が自ら墓穴を掘った、という喜劇におわるでしょう。(O2)

これも興味深い指摘です。一方で、日本国内に「親中派」がいなくなっている事実をどう考えるべきでしょうか。

国家のリーダーが、国家のために命を捧げた者に対して「敬意と感謝」の気持ちをもって平和を祈る行為は、どの国の指導者にも素直に理解できることだと思います。米国のリーダーがアーリントン墓地に行くのと、日本のリーダーが靖国参拝をするのは、同じ気持ちです。わたしの、

ある友人は、「小泉総理が、江沢民主席や金大中大統領と一緒に靖国参拝をすればよいのではないかと。百聞は一見にしかずです。また、小泉総理も、中国や韓国を、解放記念日に訪問し、ともに戦没者墓地で平和の祈りを捧げたらよいのではないのでしょうか。もし日中のリーダーが手をつないで平和を祈る姿が世界中に配信されたら、これはアジアの歴史を変える21世紀初頭の一場面となるでしょう。(03)

まったく同感です。

最後に、これは誰でも知ってる(若い世代は知らないかもしれない?)『同期の桜』です。あらためて感じる5題目の歌詞が持つ重み。

- 1 貴様と俺とは同期の桜 同じ兵学校の庭に咲く  
咲いた花なら散るのは覚悟 みごと散りましょ国のため
- 2 貴様と俺とは同期の桜 同じ兵学校の庭に咲く  
血肉分けたる仲ではないが なぜか気が合うて別れられぬ
- 3 貴様と俺とは同期の桜 同じ航空隊の庭に咲く  
仰いだ夕焼け南の空に 未だ還らぬ一番機
- 4 貴様と俺とは同期の桜 同じ航空隊の庭に咲く  
あれほど誓ったその日も待たず なぜに死んだか散ったのか
- 5 貴様と俺とは同期の桜 離れ離れに散ろうとも  
花の都の靖国神社 春の梢に咲いて会おう

これを聞いて、「靖国神社は忌むべき軍国主義の象徴」と思うか、「後世に伝えるべき民族の物語」と思うか。これは両方の反応があって当然だと思います。それにしても、「仰いだ夕焼け南の空に 未だ還らぬ一番機」という情景のなんと美しく、つらく、切ないことでしょう<sup>7</sup>。終戦記念日まであと5日。

---

<sup>7</sup> 「一番機は編隊を統率する、最優秀なパイロットの乗る飛行機である。それだけに使命感に満ちた凛々しい若者を想像させる。そして南の沖縄のほうに出撃した編隊のなかの一番機だけが、夕焼けのなかに帰ってこないのである。おそらくは敵艦に突入したのであろう」(『重光・東郷とその時代』岡崎久彦P408)

## < 今週の”The Economist”から >

”Shrine wars”

Aug 9th, 2001

Asia

「神社戦争」

**\* 首相の靖国神社参拝は欧米のメディアでも評判はよくありません。”The Economist”誌の論評はかくのごとし。**

< 要約 >

終戦記念日の8月15日に、戦死者と共に戦争犯罪人も祭った神社に参拝するかどうか。小泉首相は今も「熟慮中」だ。予定通り行くとするならば、小泉氏は少なくとも自民党の支持は当てにすることができる。田中外相や野中元官房長官などの反対はあるものの、多数派は靖国神社と緊密なグループである軍恩連盟に耳を傾ける。実際、小泉が靖国参拝を公約した理由のひとつは4月の総裁選を勝ち抜くためだったと、政治評論家の森田実語る。

田中外相の反対は、小泉首相との激突後は沈静化した。駐ワシントン大使の人事でもめた田中氏はほとんど更迭されかけた。だが連立相手の公明党は、参拝に強く反対している。公明党の支持母体である創価学会は、戦争中は国家神道に迫害を受けていた。だが自民党内では公明党との連立に反対する者が多く、小泉氏がそのために妥協することは難しい。民主党などの野党もまた首相の靖国参拝に反対しているが、当然のこと影響力は小さい。

韓国と中国は、首相が参拝を考慮するだけで憤慨している。先月、中国の唐外相は行かないようにとメッセージを送った。日本の右派は内政干渉だと反発。教科書問題の後だけに、韓国と中国の怒りは深い。

これだけの議論に直面して、小泉氏が頑固でいられるのは、もっとも強い影響力を持つ有権者の意見が割れているからだ。韓国や中国の怒りを理解せず、靖国への公式参拝が持つ意味を理解していない者が多い。現代史を教えてこなかったことが原因だと森田は言う。

ゆえに小泉は失うものは少なく、得るものが多いと感じているのかもしれない。高い支持率を得ているものの、公約を放棄すれば有権者の信頼を失うことを恐れている。痛みを伴う公約によって経済を再生する、そして自民党を改革する、といった他の公約には党内で強い抵抗にあう見込みだ。党内で強い支持を持たない小泉氏は、有権者の高い人気に頼るほかはなく、言葉を守り実行する人間というイメージを守らねばならないことを知っている。

だが、反対者たちは小泉氏が靖国参拝による長期的なリスクを理解していないと指摘する。ナショナリストたちが勢いを得るようになれば、首相への新たな不信を生むだろう。ワールドカップ共催が間近な韓国や、国交回復30周年を控えた中国との外交関係をも危険にさらしている。アジアで孤立するようでは日本も長くはないかもしれない。

## <From the Editor > とりあえずの私見

いよいよ8月15日が目前に迫っています。ここまで来たら、小泉首相としては「行かないで後悔するより、行って後悔した方がまし」でしょう。対アジア外交や公明党との連立などで失うものは多いでしょうが、言ったからには守ってほしい。とにかく、加藤政局の二の舞は見たくない。「あれも、これも」と迷うのではなく、「あれか、これか」を選択するのがこの人の役どころ。その結果、政権が痛手を被るとしても、もって瞑すべしでしょう。

では、来年以降をどうするか。無宗教の国立墓地を建設することが落とし所といわれていますが、これもことさらな議論であるような気がします。なにも日本版アーリントン墓地を作る必然性はないでしょう。靖国神社には遺骨も位牌もありませんが、果たしてきた役割はまさにアーリントンと同じものですから。問題はそれが一宗教法人によって担われており、かつて国家神道だった時代の記憶が残っているということ。ゆえに政教の線引きはしっかり行う必要があります。それでも、そういう存在に対して、国のリーダーたるものがしるべき敬意を払うのは当然だと思います。

考えてみたら、靖国神社 = 大東亜戦争、ではないのです。おそらく50年後には、(この間に大きな戦争がありませんように!)、今とは相当に違う認識になっているでしょう。明治維新によって日本は近代国家となり、その後はさまざまな戦争によって「お国のために」命を捧げる人々が出るようになりました。平和になった今日といえども、自衛隊の訓練活動やPKOなどで殉職される人はいるだろう。そういう人々を祭るのが靖国神社の役割だと考えれば、8月15日にこだわるのも妙な話であり、首相が参拝するとしたらむしろ春秋の例大祭のようなときの方が自然ではないかと思えます。

靖国神社が祭っている神様の中には、誤った判断を下した指導者や軍人もいるし、戦犯として処刑された人も含まれています。靖国神社がこれを分け隔てしないという点は、堂々と世界に向かって説明する必要があるでしょう。ただしこれは現代の日本人が、A級戦犯などの存在を是としていることを意味するものではなく、もし小泉首相が談話を発表するのであれば、ここがポイントになるものと考えます。

それと同時に、第2次世界大戦に関する「パブリック・メモリー」の構築が必要だと感じました。これはバブル崩壊と同じで、きちんと総括しておかないと同じ失敗を繰り返してしまいます。連合国による極東裁判の違法性を指摘する意見がありますが、それがなかった場合に自浄作用があったかどうかは疑問です。戦後半世紀以上たった今であれば、「日本人が日本人を裁く」ことが可能なのではないのでしょうか。「日本は何を間違えたのか」という問いかけは、執拗に繰り返していく必要があると思います。

最後に、いろいろ勉強してみて驚いたのは、この件について実に真摯な意見や研究が、右と左の双方から聞けたことです。「国論が二分する」のは、このように重要な問題にとって非常に健全なことであり、この国に真面目な保守派、真面目なリベラル派の両方がいることは良いことだと感じました。

さて、予定になかった臨時増刊号を終えて、今週こそは夏休みです。月末にまたお会いしましょう。

編集者敬白

- 本レポートの内容は担当者個人の見解に基づいており、日商岩井株式会社の見解を示すものではありません。ご要望、問い合わせ等は下記にてお願いします。  
〒135-8655 東京都港区台場 2-3-1 <http://www.nisshoiwai.co.jp>  
日商岩井ビジネス戦略研究所 吉崎達彦 TEL:(03)5520-2195 FAX:(03)5520-2183  
E-MAIL: [yoshizaki.tatsuhiko@nisshoiwai.co.jp](mailto:yoshizaki.tatsuhiko@nisshoiwai.co.jp)